

パーソルキャリアの全社横断デザイン統括組織ブランドサイト「NUTION」

デザイナーのキャリアオーナーシップ探索プロジェクト調査報告書 第2弾を公開

～第2弾は「地域デザイン人材にみるキャリアオーナーシップを育む環境要因」を調査～

パーソルキャリア株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：瀬野尾 裕）の、全社横断のデザイン統括組織が運営する、デザイン領域における取り組み事例や、「デザインの力」で挑み続ける当社デザイナーのリアルな姿を紹介するブランドサイト「NUTION（ニューション）」では、デザイナーが活躍するフィールドを広げ、よりよいキャリア形成を後押しするため、「デザイナーのキャリアオーナーシップ探索プロジェクト」を開始。

その第2弾として、「地域デザイン人材にみるキャリアオーナーシップを育む環境要因」に関する調査報告書を公開しましたのでお知らせいたします。

■デザイナーのキャリアオーナーシップ探索プロジェクト 第2弾

「地域デザイン人材にみるキャリアオーナーシップを育む環境要因」調査報告書

https://nution.persol-career.co.jp/wp-content/uploads/2023/01/designing_career02.pdf



■「デザイナーのキャリアオーナーシップ探索プロジェクト」実施の背景

ビジネスの世界で、デザインの必要性が話題に上るようになって久しいものの、いわゆる経営・テクノロジーの知識・経験を持つ「高度デザイン人材」はまだ不足しています。また、企業のデザイン人材に求められる知識量や役割の大きさに対して、キャリア形成の機会や活躍できるフィールドは少ない現状にあります。これらは、ロールモデルの不在などが要因として考えられます。

問い合わせ先 パーソルキャリア株式会社 広報部

TEL : 03-6757-4266 FAX : 03-6385-6134 koho@persol.co.jp

パーソルキャリアでは、「人々に『はたらく』を自分のものにする力を」をミッションに掲げ、「**キャリアオーナーシップを育む社会の創造**」を目指しています。「キャリアオーナーシップ」とは、自身のキャリアに対し主体的に取り組む意識と行動のことです。デザイン組織やデザイナーという職種も、その例にもれません。本プロジェクトでは、デザイナーのよりよいキャリアを後押し、活躍するフィールドを広げることを目的に、調査報告書やデザイナー向けのキャリアを振り返るツールなどを、全5回に渡ってお届けしてまいります。1人でも多くのデザイナーのキャリア形成のヒントとなれば幸いです。

■**デザイナーのキャリアオーナーシップ探索プロジェクト 第2弾**

「**地域デザイン人材にみるキャリアオーナーシップを育む環境要因**」調査報告書概要

【第2弾調査テーマ】

「やりたい仕事で生きていくために 地域デザイン人材にみるキャリアオーナーシップを育む環境要因」
 デザイン人材のキャリア形成には、どのようなヒト、モノ、コトが影響を与えたのか。また、どのような環境要因によってキャリアを変化させたのか。

第2弾では、「デザイン」を通して、地域をエンパワーメントする事業や活動を行う「地域のデザイン人材」にフォーカスをあて調査を実施。各地域で活躍する4人にインタビューを行いました。

【調査対象者（敬称略）】

北海道札幌市 上田 亮（株式会社COMMUNE代表／クリエイティブディレクター）

福井県鯖江市 新山 直広（合同会社TSUGI 代表／デザインディレクター）

和歌山県紀南地域 森脇 碌（TETAU事業協同組合 理事／プランナー／デザイナー）

島根県松江市 安田 陽子（株式会社あしたの為のDesign デザイナー）

【主な調査内容】

デザイン人材を育む環境要因：

当調査では、4人それぞれのキャリアの転換点、キャリア形成に影響を与えた具体的な「環境要因」、周囲のヒト・モノ・コトとの関係性などを可視化し、エピソードとしてご紹介。デザイン人材の今後のキャリア形成のイメージを具体化します。

チームのキャリアデザイン：

デザイン人材のキャリアパスは画一的なものではなく、経験の積み方やスキルの身に着け方、はたらき方など多種多様です。多様にはたらくデザイン人材が、自らのキャリアに対して主体的に行動する「キャリアオーナーシップ」を発揮するために、組織やチーム、マネージャーやリーダーとしてできることについてもご紹介いたします。

問い合わせ先 パーソルキャリア株式会社 広報部

TEL : 03-6757-4266 FAX : 03-6385-6134 koho@persol.co.jp

PEOPLE

目的や危機感でつながるヒト

目的や目標、実体数値特定の危機感、組織への不満、社会課題などでつながる関係性。

- 01 札幌国際芸術祭⁰¹に参加した際に「暮らしかた展覧会」として活動する2人⁰¹に出会いました。彼らが当時関わっていた、農約書らしき字上「自然の森」という展覧会⁰¹に参加したのですが、その頃の仲間と今も顔⁰¹を繋いでいて、今ではCOMMUNE FARM⁰¹としてスタッフみんな⁰¹で野菜をつくっています。(上田 亮)
- 02 MEET. はスタートして数年は自分たちでやりたいイベントを企画していましたが、今は少し落ち着いて、自主企画よりは持ち込み企画⁰²やレンタルスペースの稼働が大半です。特に東京のアパレルやアウトドアブランドなどの企業のお客様⁰²に使っていただいています。(上田 亮)
- 03 とみおかクリーニングさん⁰³だと、社内でデザイン会議を毎月1回やっていて、僕もそれに参加して、ブランディングのために何をやるのかを一緒に考えたりしています。僕自身、だんだん経営に目線がいくようになって、知識が増えてきているからだと思います(上田 亮)
- 04 SOE という名前の別会社を設立したんですけど、SOEは職人に特化した会社なんです。何をやるかという、適年度の産業観光の推進と並⁰⁴をいくつかつくります。あとは、学校⁰⁴も作る。これは自分の中でRENEWの第2期みたいな感じで。RENEWの次の事業所のスタッフ⁰⁴と新しい会社をつくるみたいな。(新山 直広)
- 05 「移住して仕事も暮らしも最高だけど、10年後にこの町の産業は残っているのかみたいな会議⁰⁵になって。確かに、やばいかもと思って、それを指をくわえて待っているくらいだったら、自分たちで何かアクションしようと思ってつくった⁰⁵のが「SUGI(ツギ)」というチーム⁰⁵。(新山 直広)

- 06 普通に内線でも市長から電話がかかってきて「新山、ちょっとこっち来い」みたいな。僕は役職が臨時職員だったので、正職員じゃないんですけど「新山、どう思う?」みたいな感じで、よく市長室に呼ばれていました。「俺が責任を取るから、お前の好きなことをやれって言ってくれたり⁰⁶とか。それはかなりうれしかった。(新山 直広)
- 07 まつさか農園さんは稲取山に来て一番最初のクライアント⁰⁷さんで、最初は最初のクライアントがまつさか農園さんじゃなかったら、私はたぶん絶望してまだにクラウドソーシングや、都合の仕事を取ってるかもしれないというくらい、私にとって希望の星です。地方でも一緒に未来を考えられる人⁰⁷がいるんだという。(森脇 隆)
- 08 教育機関やNPOさん⁰⁸に対して、無償でそういう育成の機会を提供するという考え方でやっていて、どんどん広がっています。今は需要を持っている方⁰⁸たちとの接点が多すぎて、18歳から20歳くらいまでの購買を持っている子に当たって、WEBデザイン⁰⁸やIllustrator⁰⁸を個別に教えています。(森脇 隆)
- 09 あとは、地域の真なる業種の人たち⁰⁹が会う機会が少ないので、自派にデジタルトランスフォーメーション⁰⁹を持っている東京の会社と一緒に「稲取Knit」という、地域を盛り込むという意味のイベント⁰⁹をやっています。地域の企業さんや地域の人をもそういふところだと、いいことじゃなきゃならない。(森脇 隆)
- 10 『魚と酒』¹⁰は、発行先が編集メンバーを頼んでいる時に、ローカルジャーナリストとして田中さん¹⁰が紹介され、田中さんの声かけで食に関心がある編集長と「バー」¹⁰ができました。私もおいしいものを知りたいし食べたい¹⁰と、参加を即決しました(安田 祐子)
- 11 新山さんは演劇の拠点と同じ青南市のご出身なので、点と点がつながる感じで、青南市の仕事と一緒に取り組む機会¹¹にも多く生まれました。新山さんと共同することで、地域¹¹の歴史や文化¹¹、そして自分よりの世代の人たち¹¹の感覚や考え方も踏まえて取り組むことも大きいです。(安田 祐子)

調査生ログ :

4人のインタビュー内容を、できる限り編集を施さず、実際の発言に近い状態で掲載しました。

調査生ログ 01/04

上田 亮

クリエイティブプロレクティブ COMMUNE 代表
クリエイティブディレクター



感じることができた。

カルチャーシーンの延長で生まれるデザインの仕事

デザインの専門学校時代、学外でデザインの実践を積むことを重要視していたという上田さん。学業の傍ら友人とデザインのユニットを組み、札幌のカルチャーシーンに飛び込み、クラブイベントやライブイベントなど、いろいろなイベントに顔を出していた。そのため、音楽やアパレル関係の知り合いが多かったという。当時のデザインの仕事はすべて、そういった知り合いからの依頼だった。専門学校時代の2年間で制作した作品は60を超えるという。たくさんの人と会い、それによってできたつながりから、デザイナーとしての経験を自ら積んでいった。

SADCを通じて、札幌内外のデザイナーとの距離を縮める

SADCの存在は、独立したの上田さんにとって重要だった。SADCの新入員の受賞や、その後も受賞を重ねることで、札幌で働いていたデザイナーたちと同じ土俵に立てようになっていた。その頃から、「デザイナーをやっていますと自信を持って言えるようになった」と上田さんは言う。SADCが札幌で重要な組織になっていくにつれ、SADCを通じて第一線で活躍する東京のデザイナーとも知り合う機会が多かったという。SADCが上田さんを「札幌の重要なデザイナー」としてその立場を押し上げ、東京のデザイナーとも肩を並べて対面しやり取りできる機会をつくったに違いない。

黎明期の仕事を支えてくれた熱心なクライアント

独立した当初、仕事を支えてくれたのはある代理店の担当者。「独立してから最初の数年間、食べていたのはその人のおかげ」と上田さんが語るくらい、黎明期のの上田さんにとって大きな存在だった。また独立前から担当していた、コンサドール札幌のチケットデザインの仕事も継続することとなり、熱心なクライアントとの仕事に恵まれることになった。この頃から、「インディーな仕事」から脱却し、クライアントの規模が「個人」から「会社」へ変わっていった。こうした個人から会社へのクライアントの規模のグレードアップは、札幌の地域としての特色かもしれない。

コミュニティやクライアントとの「ワーク・タイズ」な関係

上田さんは、アメリカの社会学者マーク・グラノヴェッターが提唱した「弱いつながり」を意味

プロフィール

デザインにおいて、本質的であること、シンプルであること、美しいこと、機能的であること、協力的であること、継続的であること、を理念として、ブランディングやプロデュースを中心に活動。様々な企業やショップ・飲食店などのアイデンティティから、パッケージ、ウェブサイトやインテリアまで、デザインが関わることができるすべての領域でクライアントワークを行う。また、札幌オフィスに併設する、出会いと学びをテーマにしたクリエイティブサロン「MEET」にて、展覧会、ワークショップ、トークイベント、ライブなど、様々なプロジェクトのオーガナイズを行う。更に、ともに学び、ともにつくるをテーマに、将来的にエネルギーや食料などを自給することを目指す OFF-GRID CAFE「PHYSICAL」を運営するなど、インDEPENDENTな活動も積極的に行う。2011年には、1年のうち1ヶ月をスウェーデンで暮らす「1/12 SWEDEN PROJECT」をスタート、2014年には、札幌国際芸術祭にて本の交換プロジェクト「BLIND BOOK MARKET」を開催し、活動の領域を広げている。

キャリアのハイライト

憧れの人と距離が近い街、札幌

デザイナーになろうと思ってから現在まで、上田さんがずっと札幌で活動し続けたのは、憧れとなるデザイナーが札幌にいたこと。デザインの専門学校時代の上田さんにとって、雑誌の巻頭で特集されていた札幌のデザインユニット extra design の存在は、札幌で活動していると考えていた上田さんにとって大きな心の拠り所になった。extra design とはその後に知り合い、親交を深めることになる。また、在学中に講義を受けた寺島賢幸さんの作品に影響を受け、インタンクとして働きに行くなど、札幌の第一線で活躍していた憧れとなるデザイナーを近くで

Facebook公式ページ「[NUTION by PERSOL CAREER](#)」にて、今後の調査レポート情報や、調査レポートから抽出した内容をもとに自身のキャリアを振り返ることができるツールをご紹介します。

問い合わせ先 パーソルキャリア株式会社 広報部
 TEL : 03-6757-4266 FAX : 03-6385-6134 koho@persol.co.jp

■ブランドサイト名「NUTION」について

パーソル（PERSOL）とは、“人”の成長を通じて（PERSON）社会の課題を“解決”する（SOLUTION）という意味の造語[※]です。この造語の由来からブランドサイト名は、「PERSON」の「N」と「SOLUTION」の「UTION」から、「**NUTION**」と名付けました。



※ <https://www.persol-group.co.jp/corporate/vision/>

■パーソルキャリア株式会社について < <https://www.persol-career.co.jp/> >

パーソルキャリア株式会社は、**－人々に「はたらく」を自分のものにする力を－**をミッションとし、転職サービス「doda」やハイクラス転職サービス「doda X」を通じて人材紹介、求人広告、新卒採用支援などを提供しています。2022年5月にはプロフェッショナル人材の総合活用支援ブランド「HiPro」を立ち上げ、副業・フリーランス領域にも本格参入。グループの総力をあげて、これまで以上に個人の「はたらく」にフォーカスした社会価値の創出に努め、社会課題に正面から向き合い、すべての「はたらく」が笑顔につながる社会の実現を目指します。

当社のミッションについて：https://www.persol-career.co.jp/mission_value/detail/